

ひだご坊

No.374

2020年9月20日

発行

真宗大谷派 飛騨御坊真宗教化センター
発行者 三島 多聞
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

「いつたいなぜ？」 から始まる生き方

見義智証



〈略歴〉
一九七六年富山県富山市生
まれ。富山教区第十組正覚
寺住職。富山教区災害復興
支援ネットワーク事務局。
真宗大谷派教誨師。

ハンセン病という病気を
知っていますか。かつては「らい病」と呼ばれ、
遺伝病として恐れられま
したが、後に遺伝病では
なく、とても弱い感染症
だと明らかになりました。
にも関わらず、日本では
患者を一生の間隔離し、
その家族をも徹底的に排
除するという政策が長い
間続けられてきました。
9・11の同時多発テロ
のとき、アメリカでは無
関係なイスラム教徒に偏
見・差別・憎悪が向けら
れました。東日本大震災
の原発事故で、放射性物
質の流出が起こった際
は、県外へと避難した人
に、「放射能がうつる」「福
島に帰れ」といった福島
差別が起こりました。
今回のコロナ禍でも、

県外ナンバーの車への嫌
がらせや、「自粛警察」
などの過剰な排除の反応
をニュースで耳にします。
他にもヘイトスピーチや
様々なハラスメントなど、
他者への差別・排除が私
たちの社会には厳然と存
在します。いつたいなぜ
でしょうか。
他者を差別し排除する、
私たちのこうした姿につ
いて、「いつたいなぜ」と
悩んでこられたある方
は、こう言います。「『こ
の私』が傷つけられた人
の言葉を聞いてこなかっ
たし、聞くこともしな
かったことが社会に差別
と排除の論理を温存させ
てきた」。差別・排除さ
れた人たちの声を聞いて
こなかったのは、「社会」
や「どこかの誰か」では

なく、「この私」なのだ
と。
「この私」を抜きに
すると、何でも言えてし
まいます。「差別はして
はいけません」、「人を傷
つけてはいけません」
そう言いながら、私たち
は何度同じ歴史を繰り返
してきたでしょう。
「人を傷つけ差別して
きたのは、他ならぬ『こ
の私』でした」と気づか
され、その人たちに頭が
下がる。それがなければ
本当の意味で「共に生き
る」世界は始まらない。
厳しくも柔らかな言葉で
差別と排除を作る私に問
いかけ、多様な人との関
係に触れさせてくれる世
界があるのではないで
しょうか。
かかわらなければ／こ

の愛しさを知るすべは
なかった
この親しきは湧かな
かった／この大らかな
依存の安らいは得られ
なかった
この甘い思いや／さびし
い思いも知らなかった
人はかかわることからさ
まざまな思いを知る
子は親とかかわり／親
は子とかかわること
よって
恋も友情も／かかわる
ことから始まって
かかわったが故に起こ
る／幸や不幸を／積み
重ねて大きくなり
くり返すことで磨かれ
そして人は
人の間で思いを削り思
いをふくらませ／生を
綴る
ああ何億の人がいよう
とも／かかわらなけれ
ば路傍の人
私の胸の泉に／枯れ葉
いちまいも／落として
はくれない
ハンセン病回復者の塔
和子さんがつづった、「胸
の泉に」という詩です。
関係性の中で起こる幸
や不幸、それらすべてが
私の生です。しかし、差
別と排除はその関係性を
断ち切り、お互いを孤立
させ、孤独にします。隣
に人がいても、枯れ葉い
ちまいも落としてくれな
いようなさびしさ。この
言葉は、あなたにはどの
ように届くでしょうか。

別院定例法座		午後1時から	
9月28日 親鸞聖人ご命日法座	10月3日 三日のご坊	講題 「いのちの声」	講題 「自力と他力」
講師 森 恒河氏(秋聲寺住職)	講師 樋口 博之氏(常照寺住職)		

秋の彼岸会・永代経法要

亡き方をご縁として仏法に出会う大切な仏事です。
ぜひお参りください。

9月19日(土)～25日(金)
午後1時から 勤行・法話

19日(土) 小原 正憲氏 (専念寺住職)	「助かる」とは
20日(日) 春國 文春氏 (玄興寺住職)	信じるということ
21日(月) 江馬 耀準氏 (光雲寺住職)	人間として生きる
22日(火) 三島 多聞 (別院輪番)	意味ある人生
23日(水) 内記 浄氏 (往還寺住職)	生と性と死 — 南無阿弥陀仏
24日(木) 中飯田 正夫氏 (寶蓮寺前住職)	亡き人を憶う
25日(金) 照元 興圓氏 (浄念寺住職)	池仏山浄念寺に伝わる池仏様

テレビ番組 「ごぼうチャンネル！」

放送開始!

放送期日 10月2日から1ヶ月間毎日放送!
放送時間 7時15分～7時30分
17時30分～17時45分
放送内容 お坊さんのお話、映像仏典童話
視聴方法 ケーブルテレビ Hit net TV!への
加入が必要です。
(お問合せ先 0800-200-8688)

10月2日より、高山のケーブルテレビ「Hit net TV!」に
て、高山一円のご家庭に真宗のメッセージを届けるべく、
子ども向け番組「ごぼうチャンネル!」がスタートします。
お坊さんのお話、仏典童話は見てのお楽しみ!
ケーブルテレビに加入されている方は是非ご覧ください!
また放送後はインターネットにおいても視聴できるよう環
境を整えてまいります!

これは見逃せない。要チェックです。

※次回の放送は1月です。詳細が決まりましたら、改めてご案内します。
※放送時間が都合により変更になる場合がございます。ご了承ください。

宗教トラブル相談窓口 ☎0577-1321-0763

家族で話そう

仏教×グリーンフケア⑩

尾角 光美

「弔いの場における僧侶の存在」

この連載も10回目を迎え、毎回、どんなことを読者のみなさまにお届けしようか、迷いつつも楽しみながら準備をしています。今回は「お弔いの場に僧侶がいることの意味」を考えてみたいと思います。

最近、同世代(30代)の友人Aさんが、ご尊父を亡くされたのですが、これまでお墓があり、檀家になっていたお寺さんにはお願ひせず、無宗教式のお別れ会と火葬のみ行うことに決めたと連絡をもらいました。火葬の前の晩に、突然電話が入り「お父さんね、仏教の本とかよく読んでいたの思い出して、本当にこのまま送ってよいのかな」という言葉に、私は思わず「火葬場でお経だけでもあげてもらおうと、よいかもしれないね。もしよかったら、お坊さんをつなごうか」と返しました。

今、北海道から九州まで全国に、200名近くリヴオンで学んだ卒業生のお坊さんたちがいるので、必要があれば、おつなぎするところがあります。お寺と縁のある方も、なかった方もいます。私が母を送ったときは、遺書通りに兄弟が手はずを進め、私たちのみで火葬だけ行いました。兄を送るときも同じ火葬場で、でも傍らには僧侶がいてくれて、私にとってはそれが心強く、安心でもありません。

定例法座・法話(午後1時から) 9月28日(月) 森恒河氏(秋聲寺) 10月3日(土) 樋口博之氏(常照寺) 10月11日(日) 三島多聞輪番

た。辛さは変わらないけれど、そこに立っていることで力をすこしらったような気がします。

僧侶自身がお弔いの場にいる意味は「お念仏と出会ってもらうため」とか「教えを伝えるため」かもしれませんが、遺族にとっては、また別の意味合いがそこにあると思うのです。死者とつながるための最初の一步が、葬儀、弔いの場であるということ。そこでいかにつながったらいいか、手助けしてくれる存在として、僧侶がそこ

にいてくれることは、とても大きなことなのではないでしょうか。「喪の旅(グリーンフ)の伴走者」としての僧侶。でも、どんな僧侶でも「ただいればいい」わけではありません。そこにどんなまなざしをもって、「あり方」をして、立ち会ってくれているのか。例えば、お花入れのときに、ただお経を読むだけでなく、一緒に亡き方を見て、感じて、そっと花を手向ける僧侶もいます。これは実話で、別の友人Bさんが喪主を務めた葬儀に参列した際、僧侶の方が花入れで花を入れてくるのを見て、そのことを後で友人に伝えたら、涙していました。

僧侶の側からすれば、年間何回もある葬儀の中の一回ですが、遺族にとっては、一生に一度しかないその人との最後の場であり時間。その時、いかにその「人」を感じて、共にいてくれるのが遺族に伝わるのでしょうか。

この連載のタイトルにある「仏教×グリーンフケア」を思うと、私

などが「仏教」について言葉にしているのだからと、いつもどこかに戸惑いがあります。厳密に仏教の教えとここがグリーンフケアと重なっています、などと私は語れません。けれど、私がこれまでの現場経験で感じたのは、日本人にとっての「仏教」はやはり「弔いの場」において、僧侶の存在により安心してお別れでき、送ることができたという感覚になることに現れてくるということでした。

もちろん、亡くなったなら、既にお浄土に還らされているので、私たちが「送る」という表現は適しないという見方もあるかもしれませんが。そう実感できている人にとっては「弔いの場」は「送る」ということではないかもしれません。でも「お見送りをしっかりとしたい」という市井の人の気持ちというの、確かにあるのだからと思います。

そうした「ずれ」については、互によく耳を傾け、対話していく中で、見つめていく必要もあります。お寺さん、僧侶のみなさんは、そのずれに気づかないまま「これまでやってきたままいい」と思っていると、足をすくわれてしまうような時代を今、生きているのでしょうか。家制度、墓守、葬儀や儀礼の慣習、といった仕組みや価値観が大きく変容していく中で、何を求められ、本当に「あるべきよう」はどんなものなのかを問われ続けています。

次回は佐賀枝夏文さんの「人生の「こんなこと」「あんなこと」⑩」です。

第38回 真宗公開講座

～宗祖親鸞聖人ご誕生850年 立教開宗800年慶讃講演会(第2回)～ 10月6日(火)13時30分～

講師 北條 頼宗氏(高田教区照行寺住職・本山教師修練指導) 講題 「人と生まれて」 会場 高山別院 本堂 主催 高山1組真宗の会

飛騨御坊限定! 蓮の実念珠販売!

ご坊さま(高山別院)の蓮池から採れた実で作った「蓮の実念珠」を販売しています。念珠は一つ5,000円。少し高額ですが、高山別院への懇志としてお預かりさせていただきます。 ※念珠の修理も承っています。 お問い合わせ・ご予約は別院(32-0776)まで



ひだご坊 一口法話

URL: https://hidagobo.jp/sermon/ 10月1日～ 森 香里氏(秋聲寺) 10月15日～ 江馬 雅臣氏(賢誓寺)

提灯製作 見積無料 高山提灯 株式会社 高山提灯

大谷婦人会 定例法座 三島多聞別院輪番

新宮墓苑(墓地) 空あり1区画40万円

お仏壇 ほりお 仏壇工芸

ドローン空撮 株式会社リプロ

飛騨の華 本醸造

ブックス・アイオー 浄土真宗仏教・仏事のハテナ?

カ 奥原建設株式会社 総合建設業

山都印刷株式会社 印刷物全般・自分史製作

久寿玉 KUSUDAMA 柚子酒 新発売

お墓の困りごとを相談しませんか。お墓の展示会開催中 22日(火)まで